

札幌孝仁会記念病院

がん治療の3本柱、手を学んだ。

術、放射線治療、薬物療

法のうち、放射線治療に

関しては未だ認知度が低

く、放射線に対する抵抗

感を持つ人も少なくな

い。札幌市西区の札幌孝

仁会記念病院(齋藤孝次

理事長、入江伸介院長・

276床)は、陽子線治

療装置、サイバーナイフ、

トモセラピーの3機種

を、脳卒中、心臓病、

がんを、最新の検査機

器も、備えており、早

期発見・治療から「

切らずに治すがん治

療」に力を入れ

ている。

ル。23年4月から現病

院で、陽子線治療装置

は、ベ

ルギーのIBA社製。従

来の放射線治療は治療

に必要なエネルギーが、

表面に近いところで最大

になり、体を通るうちに

徐々に弱くなり抜けてい

く。一方、陽子線治療

は、2016年10月に現在地に新

を1施設でそろえるの

く。一方、陽子線治療

は、体表面近くで抑えられ、

標とする点で最大にな

り、そこで止まるのが特

徴。このピークを病巣に

一致させることで、従来

よりも周囲の正常組織へ

の影響を最小限に抑えた

ピンポイント治療ができ

る。

さらにサイバーナイフ

は、自在に動くロボット

アームで、さまざまな方

向から病巣に対して放射

線を照射。2つのエック

ス線撮影装置で撮影した

検査画像を利用し、ピン

ポイントで治療が可能。

トモセラピーは、CT装

置にリニアックを組み込

んだ構造で、強度を調放

射線治療という技術で、

陽子線治療の治療費用

に関して、2016年

に、2016年

に、2016年



全国的にも数少ない陽子線治療装置

照射位置や角度ごとに放射線ビームの形や照射時間を変え、周囲の正常細胞への影響を最小限に抑

見学会で放射線治療を身近に

陽子線で早期肺がん治療へ



強度変調放射線治療が特徴のトモセラピー

見学会では、参加者から、治療装置別の特徴や機能、治療を得意とするがんの種類だけでなく、治療の主な流れ、治療計画作成の具体的な流れから、治療を支えるスタッフの体制、放射線技師の育成など幅広い質問が挙がり、放射線治療への関心の高さが伺えた。

「診療の現場や治療機器をご覧いただくことで、治療の流れを具体的にイメージでき、不安感の解消につながったのではないかと考えています」と中村課長は、見学会に手こたえを感じている。

同病院では、生活・人生に寄り添うがん治療を標榜しており、他施設からの紹介患者にも数多く対応している。

「地域住民、他の医療機関の関係者にもっと当院の放射線治療を知っていただく、がん治療の選択肢として認知向上を目指しています。また、信頼されるがん治療施設と

して選ばれるようこれからも努力を続けていきたいと思います」と話す。

に小児腫瘍を皮切りに、もあって、症例数は増加前立腺がん、頭頸部悪性傾向。陽子線治療は20腫瘍、肝細胞がんなど保険適用は年々拡大。24年0症例、サイバーナイフ度診療報酬改定で、早期とトモセラピーは201肺がんも認められた。

「日本人の部位別死亡率では男性は肺がんが最も多で、女性も増加傾向にある。陽子線によるがん治療は通院可能で患者負担が小さい治療です。早期肺がんでも手術以外の選択肢があることが伝われば」と札幌高機能放射線治療センターの中村大隆課長は話す。

こうした保険適用拡大肝臓10%など。

83症例に対し、延べ照射回数は3万3991回

3治療装置合計で、原

発巣分類別症例数は、乳

腺が36%で最も多く、肺

指しています。また、信

頼されるがん治療施設と

して選ばれるようこれか

らも努力を続けていきたく

思います。